

グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	インドネシア		
校内発表会	10月1日			(対象)	全校・学年
学校名	県立下田高等学校	氏名	近藤 風花	学年	2

1 目的・応募理由

私は英語が好きで、空港のグランドスタッフやホテル業務などの英語を使うことが多いサービス業に興味があり、外国の人に対する接客について知りたかったのに加え、海外渡航歴がなかったので、海外研修を通して日本と違う文化や環境に触れ、多様な視点を身に着けたいと思い、応募した。

2 研修内容等

〈7/20 実施前研修〉

事業の内容説明、海外渡航に関する連絡、グループ内での自己紹介、国内研修・海外研修の日程や持ち物など概要説明

〈7/26 国内研修〉

株式会社呉竹荘の取り組み、研修先のホテルの概要、海外研修における注意点の説明

〈8/5～8 海外研修〉

1日目…入国、移動

2日目…ホテル研修(ホテル施設内の案内・説明)、現地の大学生との交流

3日目…ジャカルタ市内研修(タマンミニ・インドネシア・インダー、ファタヒラ広場、イスティクラル・モスク、ジャカルタ大聖堂、グランドラッキー・スーパーストア)、帰国



3 感想等

外国やサービス業に興味のある私にとって、この海外インターンシップは、外国への興味を更に増幅させ、多様な視点で物事を見るための貴重な経験となった。インドネシアに着くと、スパイスの効いたものが多い料理や、日本と比べ物にならない量の自動車とバイク、時々見られる信号機や車線の無い道路、日本円



と比べてほぼ3桁も低いルピアなど、驚くことばかりだった。

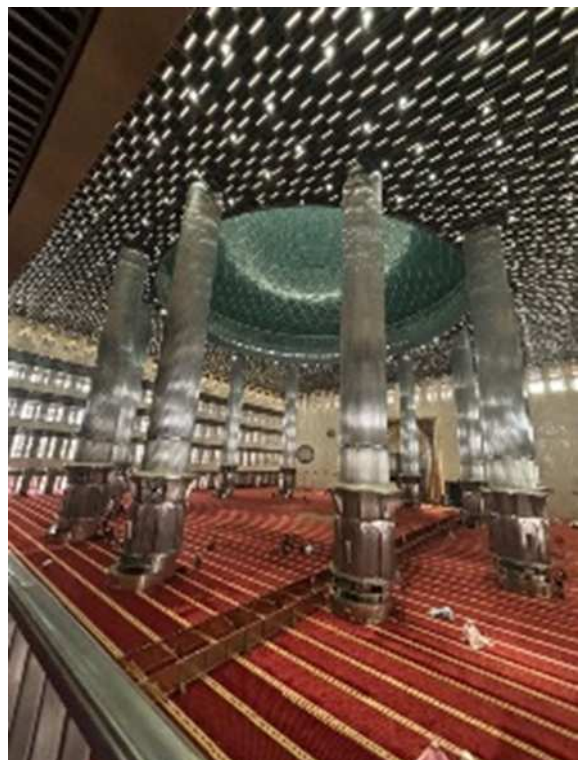
ホテル研修では、日本の様式を取り入れつつも、宿泊客の9割以上を占めるインドネシアの人々の過ごしやすさを考えた部屋の設備・内装に感動し、2つ以上のものから良い特徴を集めて1つにすると、それぞれの特徴が活かしたものになることを学んだ。

現地の大学生との交流では、インドネシアの料理を味わったり、

「オンデルオンデル」という人形の歴史を学んだり、実際にその人形をリサイクル材料で作ったりした。インドネシアの料理はスパイスの効いたものが多かったが、それだけでなく、日本のかき揚げやつくね、えびせんべいに似たものもあり、少し驚いた。料理を味わう中で、青唐辛子と気付かず一口で食べてしまい、あまりの辛さに暫く涙が止まらなくなるハプニングがあったが、自分の水を躊躇うことなく差し出してくれた大学生や、すぐに牛乳を持ってきてくれたスタッフさんの親切に胸がいっぱいになった。人形作りでは、お互いにコミュニケーションを取って助け合いながら、可愛い人形に仕上げる事ができた。私は、学校や日常で英語を勉強する中で、標準語以外の言語を使うことの難しさを身をもって感じているので、特に難しいと言われている日本語を流暢に話している大学生がとてもかっこよかった。この交流は、インドネシアの伝統に触れるだけでなく、日本での学習意欲を高めることもできる大変貴重な時間だった。

ジャカルタ市内研修では、たくさんの観光名所を訪れたが、イスティクラル・モスクが一番印象に残っている。あまり宗教に深く関わっていなかったこともあり、敷地内に足を踏み入れた瞬間から感じる、どこか重みがあるような静けさに圧倒された。建物の寸法という細かいところにまで独立記念日と関係付けていて、やはり国の独立はどこにおいても重要なものなのだと感じた。

インドネシアでの滞在は、乾季のため過ごしやすさはあったものの、道路やトイレの設備において苦労してしまうことがあり、日本の設備の質の高さを改めて確認する良い機会となった。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム		高校生海外インターンシップ		訪問国	インドネシア
校内発表会		9月18日			(対象) 全校 ・学年
学校名	県立伊豆中央高等学校	氏名	植松 沙南	学年	2

1 目的・応募理由

海外の人々の物事や捉え方や文化など、自分にはない新しいものの見方に触れてみたいと思ったからです。また、将来の職業選択に向けて視野を広げたいと思ったからです。

2 研修内容等

ホテル業務見学で、ホテル内の設備を見て回りました。部屋の種類や大浴場、職場の様子を見学しながら、インドネシアの文化にも関連づいた説明がされていて、日本の文化と比較しながら回ることができました。その後、現地の大学生との交流会がありました。大学生の方々は日本語を学んでいて、日本語で挨拶や自己紹介をしていました。彼らとは伝統的な人形を作ったり、インドネシアの環境問題について改善策を考えたりしました。市内研修では、博物館でパプア民族の歴史について学んだり、キリスト教やイスラム教の教会に行ったりしました。イスラム教の礼拝を呼びかけるアザーンが印象的で、大きな肉声が建物中に響いていました。



3 感想等

ホテル内研修で、スタッフの方々に限らず、インドネシアは母国語の他に英語も上手に話せる人が多いことや、一般の人の結婚式でも何百人も参列することを聞き、驚きました。大学生との交流会の前に、ブタウィ族の伝統文化であるオンデル・オンデルという踊りのようなものを見させていただきました。厄除けの儀式だそうで、とても陽気な音楽が流れていました。見ているこちらにも楽しくなりました。大学生との交流会では、大学生と話していくうちに、インドネシアを身近なものに感じていきました。現地で暮らしている人の話は、インターネットで調べるよりも説得力があり、インドネシアの環境問題の改善策を考えるととても参考になりました。大学生はとても明るくて、私たちに親切にしてくれました。仲良くなることができて良かったです。市内研修では、日本とは違うけど料理はおいしいことに気づけたり、初めてアザーンを聞いたりしました。学校で習ったことも、知らなかった新しいことも実際に身をもって体験出来て良かったです。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム		高校生海外インターンシップ		訪問国	インドネシア	
校内発表会		8月29日			(対象)	全校・学年
学校名	県立静岡西高等学校		氏名	原田 健虎		学年
						2

1 目的・応募理由

私がこの高校生海外インターンシップに参加した理由は、コミュニケーション能力の向上です。私はあまり自分から積極的にコミュニケーションを図れるタイプではありません。しかし、自分の知らない国で初めて出会う人々と過ごすことで、コミュニケーション能力の向上が図れるのではないかと考えました。また、私は将来、起業をしたいと考えています。この海外インターンシップで、世界で活躍する静岡の企業から様々なことを学び、将来起業する際に役立たせたいと考え応募しました。

2 研修内容等

国内研修では、ホテル業界の仕組みについて学ぶことができました。ホテルは時期によって料金変動し、変動の上限が決まっているそうです。多くの宿泊客が見込める時期には料金を上げると知りました。

海外研修では、初めに、呉竹荘のバックヤードを見学させていただきました。私が思っていたよりも従業員の数は少なかったです。日本語が話せる方もいたり、一人ひとりの社員がとても優秀な方たちだと思いました。カードキーが日本の昔の絵をモチーフにしていたり、様々なところに日本の絵が飾ってあり、日本らしさをとても感じられました。午後には、現地の大学生とも交流して、環境問題についても話し合いました。インドネシアでは洪水や、渋滞、ゴミ処理が大きな問題になっていることが分かりました。

3 感想等

7月20日に行われた海外インターンシップの実施前研修では、現地のことについて詳しく知ることができたため、期待が高まりました。初めに参加者同士で自己紹介をしました。私は初めての海外ということもあり、とても不安を感じていました。しかし、一緒に参加するメンバーとお互いのことを質問し合ったりすることで、お互いをよく知ることができ、不安はかなりなくなりました。自己紹介で私は音楽を聞く事や世界史が好きだと伝えたら、同じ音楽や世界史が好きな人がいてとても話も弾みました。また、インドネシアについて学び、通貨単位がルピアということや、1ルピアが日本円だと0.0097円ということも知りました。

7月26日に行われた国内研修では、株式会社呉竹荘を訪問しました。まず他己紹介をしました。その後、常務取締役である山下様から呉竹荘やインドネシアについてお話を伺いました。株式会社呉竹荘ではホテルだけではなく、結婚式場や宴会場、レストラン、保育園まで経営していると伺い、とても驚きました。海外にはインドネシアに2つ、ベトナムに1つ、タイに1つホテルがあり、海外でも広く事業を展開されていることを知ることができました。ホテルの従業員の業務内容としては、掃除や予約受け、料金設定、部屋決め、リクエストチェック、対応、安全管理などがあると聞きました。安全管理は1年に最低2回は防災訓練を実施していると聞き、普段の生活ではあまり知り得ないことまで聞くことができました。

8月5日から8日に行われた海外研修では、インドネシアの首都ジャカルタにあるホテル呉竹荘クマンを訪問しました。ホテル呉竹荘クマンでは畳の部屋や壁に日本の絵が飾ってあり、日本らしさを感じられるところがたくさんありました。また、屋上には日本食レストランがあり、日本の地名がついた会議室もありました。レストランの食べ物は、日本とあまり変わらない味でとても美味しかったです。

現地の大学生とも交流をしました。大学生とは日本語でインドネシアの環境問題などの話をしました。インドネシアの大学生は日本語がとても上手でした。分からない日本語の単語があつたらすぐ私たちに意味を聞いたり、メモをとったりしていました。その姿を見て、私も外国語を本気で学んでみたいと思いました。

このインターンシップを通して、一緒に参加したメンバーとも友好を深められ、海外で活躍している日本の企業「呉竹荘」についてもよく知ることができました。とても貴重な経験になり、この海外インターンシップに参加できたことに感謝しています。静岡県にある企業のことについて深く学ぶことができ、将来、私が起業する際にはこの経験を活かしていきたいと思います。また、言語が違っても、自分から話したり、伝えたりすることがとても大切だと思いました。必死に伝えようとすれば、相手に伝わるのが分かりました。これからの生活の中で、恐れず積極的にコミュニケーションをとるようにしていきたいです。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム		高校生海外インターンシップ		訪問国	インドネシア
校内発表会		12月19日			(対象) 全校 ・学年
学校名	県立焼津中央高等学校	氏名	原川 達也	学年	2

1 目的・応募理由

私は自分の海外への視野を広げるため、経験を積むため、そして、世界を平和にするという自分の夢を叶えるため海外インターンシップに応募した。世界では、戦争やそれによって発生した難民の問題や貧困問題、飢餓やテロ、少子高齢化など解決しなければいけない様々な問題が起こっている。ネットが発達した今、離れたところからでもわかることはある。しかし、どんなに沢山の情報を聞いても、実際に見て体験することに勝るものはない。また、私は世界平和を実現するという夢がある。世界平和を実現するためには世界情勢について知っておかないといけない。世界にはたくさんの民族、言語、宗教、文化がある。それらはすべて異なる。したがってその間には必ず軋轢が生まれる。そうしたものをなくすには、互いを知る必要がある。だから私は自分の見解を広げ経験を積み、他国の文化や習慣を知るためにこの研修に応募した。



2 研修内容等

今回の研修は3日にかけて行われた。1日目は夜遅くにインドネシアに到着したため、ホテルへの移動で終わってしまった。2日目はホテルで、3日目はジャカルタ市内で研修を行った。ホテルでの研修は、午前にはホテルの施設を見学、午後は国際交流を行った。ホテル呉竹荘クマンのコンセプトは、「日本を感じる、体感する」である。だから、浴衣の貸出、畳の客室、駄菓子屋風の売店、日本食、大浴場など、ホテルのいたるところで日本を感じることができた。午後の国際交流では、インドネシアの大学生と交流を行った。はじめは工作で現地の観光局の職員に教えてもらいながらジャカルタのマスコットであり伝統工芸品でもあるオンデルオンデルを制作した。その後、現在ジャカルタで起きているゴミ問題の解決方法について話し合った。ゴミ箱の設置や新しいゴミの収集方法について活発な議論を行った。3日目のジャカルタ市内研修は、渋滞で当初予定されていたところに行くことはできなかったが、インドネシア博物館やモスクなどを訪れ、インドネシアの文化や宗教について学ぶことができた。博物館には、インドネシアを構成する島々の伝統的な住居、そこに住む民族の衣装や文化が展示されており、実際に見て学ぶことができた。午後はモスクと、植民地時代に建てられた教会を見学した。また、かつてオランダ植民地時代に使われていた市役所や裁判所、大砲や橋などの歴史的建造物を見学し、虐殺などの悲惨な歴史について学んだ。

3 感想等

今回の研修で私は3つのことを学ぶことができた。1つ目はインドネシアの文化や歴史についてである。私たちはジャカルタ市内研修で、博物館と市街地を回った。博物館にはインドネシアにいる民族の伝統的な家や衣装、行事の装飾などが展示されていた。建物の多くは高床式で涼しげな作りになっており、実際建物内部は

外に比べて少し涼しかった。昼は市街地を回った。昔オランダがインドネシアを植民地支配していたときに使われていた市役所と裁判所とその前に大きな広場があった。そこでは昔裁判で死刑を言い渡された人が処刑されていたという暗い歴史がある。その近くはかつて刑務所があり、裁判所で有罪となった人たちはそのまま刑務所へ連れて行かれた。そこではひどい扱いを受け、特に女性は腰を下げないと入れないような狭い牢屋に閉じ込められたという。またその近くにはかつてオランダが中国人を大量虐殺した地域があり、その地域の地名には血という意味の地名がついた。このような悲惨な出来事を繰り返さないようにしていかなければいけないと強く思った。また、ホテルの結婚式は外部業者に委託して行っており、多人数で1日中結婚式を行う独特の文化があることがわかった。有名な人や金持ちの人などは大きな会場に友人や知り合いなどを含めて1000人以上招待することもあり、日本と大きく異なると感じた。

2つ目は日本と海外の異なるところである。インドネシアではSNSを広報活動に進んで取り入れている。観光局などの公的な機関でもInstagramなどで積極的に広報活動を行っている。日本ではSNSなどで広告したり、たくさん投稿したりするのは若者やインフルエンサーが多く、公的な機関は積極的にSNSを使うことはあまりない。これはインドネシアには若者が多いということも影響していると思う。しかし、そうしたことは日本にも取り入れたほうがいいと思った。一方、日本語を学んでいる大学生との交流では、主に日本語で話したが、英語でコミュニケーションを取ることも何度かあった。しかし、単語でなんとか伝えるのが精一杯で、英語でコミュニケーションを取る難しさを痛感した。逆にインドネシア人は、多少独特な発音ではあったが、かなり流暢に英語を話していた。インドネシア人は小さい頃から英語の教育を受けており、大学生になる頃にはスラスラと喋ることができるくらいまで学習するという。高校では第3言語も学ぶこと、インドネシアにはたくさんの民族がいるためその民族の言語も習得していることを知った。したがって言語力が高い人が多く、日本以上に言語学習に力を入れていることが分かった。

3つ目はインドネシアの抱える課題である。移動中にとっても印象に残ったのが渋滞である。インドネシアは今経済が発展している時期で、働くほど稼げる時代である。そのため交通量がかなり多く、特にバイクはたくさん走っていた。しかし、車と車の間をすり抜けていくような人が多く、事故がいつ起きてもおかしくない状態でありとても危険だった。ジャカルタでは公共交通機関が発達している。バスや鉄道が色んなところに走っていた。まさに活気のある国ならではの光景だった。一方、コンビニの前に、私たちと年の近そうな少年が、お金の入ったバケツを持って物乞いをしているのを目にした。とても心が痛かったと同時に、経済的格差やセーフティネットの課題があることに気づいた。

今回の研修ではホテル業務だけでなく、インドネシアについてたくさん学ぶことができた。また、インドネシアはトイレにトイレットペーパーが流せないことや、渋滞が酷いこと、道路の整備などがあまりされていないこと、多くの宗教があることなど、日本と異なることがたくさんあることが分かった。そしてこのことがきっかけで海外へ興味を持つことができた。それと同時に、インドネシアの経済的格差や自らの語学力の課題を解決するためにも、日々の学習、特に英語に力を入れていかなければならないと思った。



参加したプログラム		高校生海外インターンシップ		訪問国	インドネシア	
校内発表会		10月29日			(対象)	1学年
学校名	県立浜松北高等学校	氏名	廣本 美優		学年	2

1 目的・応募理由

私がこのプログラムに応募した目的は、自分の進路を明確にするためでした。ホテル業に興味を持っていたので、行動あるのみ、と思い応募しました。インドネシアに祖父母が住んでいて比較的慣れている国というのも応募したきっかけになりました。

2 研修内容等

まず、ホテル呉竹荘クマンジャカルタでホテルツアーをして部屋の特徴や日本にあるホテルとの違いを教えてくださいました。また、現地の大学生とインドネシアの伝統的な人形を作り、文化を学びました。さらにインドネシアの問題について私たち2、3人に対して大学生が1人か2人くらいのグループで議論をしました。首都の深刻な渋滞やゴミ処理問題などについて30分くらい話し合って自分たちの考えた解決策をみんなの前で紹介しました。私が話し合った議題はゴミ処理問題でしたが、やはり言葉の壁があり、日本語で、ましてや難しい問題について話すのでコミュニケーションを取ることが難しい側面もありましたが、ジェスチャーや英語で拙いながら頑張って話し合いました。こういう形で英語で会話をするのはとても楽しかったです。大学生の方々は英語で流暢に返すので驚きました。首都のジャカルタではインターナショナルスクールが増加しているとは知っていたけれど、日本よりも第二言語の英語教育が進んでいるとは思いませんでした。お別れする前にも様々な話をしましたが、インドネシア側の視点から日本の話を聞くのはとても新鮮で楽しい時間でした。インドネシアでの滞在最終日に行ったところでは、国立博物館が特に印象に残っています。その博物館は歩いて回るには広すぎて中にはバス停が何箇所かあるくらいでした。インドネシアは島国で多様な文化があるのでその島ごとの建築を再現した家がたくさんありました。自分が想像していた博物館と違いましたが、原始の時代からの歴史も体感でき、とても面白かったです。



3 感想等

ホテルツアーでは海外にある日本法人の会社のホテルだからこそその工夫というものを学びました。7人という少なすぎず、多すぎない人数なので、気軽に質問しやすく、自分から積極的に学びに行く姿勢を取りやすい環境でした。ホテルの説明をしてくださった方は日本語が完璧なインドネシア人の方で、外国人が日本語を学びたいと思ってくれるのは、日本人として嬉しいことだと思いました。インドネシアに2か所あるうちの、ほとんどの宿泊客がインドネシア人の方々であるホテルだったので、それに合った工夫を聞くことが出来ました。

また、現地の大学生からは日本の好きな所や行ってみたい所をたくさん聞いて日本の魅力を再自覚するきっかけになりました。大学生の方々と一緒に伝統人形を作ったので形に残るお土産を日本まで持って帰ることが出来たのも嬉しかったです。今、自分の机の上に飾ってあるので勉強するたびにこのプログラムを思い出してまた同じ仲間で行きたいと思っています。

帰りの飛行機で一緒に座ったメンバーとは自分たちが住んでいるところについてお互いに話しました。私は浜松に住んでいて、その友達は下田に住んでいるので、聞くこと全部が初めてでした。周りに高校がたくさんあり、自分に合った進路を選べる浜松とは違い、下田には公立高校は一校しかないことに驚きました。都市と地方の教育機会の差について問題になっているのは知っていましたが、県内という範囲でも起こっているとは思いませんでした。このプログラムに参加しなかったら、インドネシアの文化についても、自分が住んでいる静岡県についても、こんなに知ることではなかっただろうと思いました。そう思うと、本当にこのプログラムに参加してよかったと思います。同じ浜松市に住んでいるメンバーとはたまにすれ違ったりします。県内のいろんなところに友達が出来たので、学校の友達とは少し違う視点を持っていて様々な意見を聞くことが出来て嬉しいです。3泊4日とは思えない程の学びがあり、今年の夏休みで一番の思い出です。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム		高校生海外インターンシップ		訪問国	インドネシア
校内発表会		今後、2学期に実施予定			(対象) 全校 ・学年
学校名	県立浜松湖北高等学校	氏名	田中 彩瑛	学年	2

1 目的・応募理由

ホテル関係の仕事に就きたいと考えていたため、海外進出されているホテル企業でのインターンシップに興味がありました。日本の文化や生活様式の異なる海外の地域において、日本のホテルに求められている役割やニーズについて知りたかったため、応募しました。

2 研修内容等

(1) 実施前研修

実施日：7月20日(土)

研修場所：静岡県庁別館 第4会議室

研修内容：所連絡や関係者紹介、高校教育課挨拶、趣旨説明、全体研修、グループ研修、質疑応答、諸連絡等

学校だけでは学べないことがあり、学校外での経験がとても貴重で、大事だと感じました。社会に出る際に必要なスキルとして、すぐにビジネスマナー・コミュニケーション能力・柔軟性を思いつきましたが、語学力や主体性、チャレンジ精神、専門性など他にも必要なことがあると知ることができました。私には、リーダーシップやコミュニケーション能力がまだまだ足りません。今後の研修で一番に意識して伸ばしていこうと決意することができました。また、日本で働くにしても、海外で働くにしても、一歩踏み出す力が必要不可欠になると実感しました。今回の海外研修では、一歩踏み出す力についても、チャレンジして獲得したいと思うことができました。

(2) 国内研修

実施日：7月26日(金)

研修場所：呉竹荘

研修内容：会社概要(国内・国外)、事業概要(宿泊業以外も含む)、企業理念、宿泊業の業務内容概要、インドネシアについての概要、質疑応答等

今回の国内研修では、ホテルの役割や事業内容について具体的に理解することができました。そして、呉竹荘の企業理念でもある「人々のライフスタイルを豊かにし、幸せに貢献し続け、平和で豊かな社会を追求する」ことが呉竹荘の強みであり、最上級の食とおもてなしを国内だけでなく、世界中に届ける活動でもあるのだと実感することができました。ビジネスに関する内容をたくさん聞くことができ、学校での商業の授業の取り組み方を改めて大事にしようと思えることができました。

(3) 海外研修

実施日：8月5日(月)～8月8日(木)まで

研修場所：インドネシア『ホテル呉竹荘 クマン ジャガルタ』

研修内容：1日目 浜松→羽田空港→インドネシア
2日目 午前 ホテル研修



午後 現地スタッフ、地元大学生との交流
3 日目 午前 ジャガルタ市内研修
午後 インドネシア空港→日本へ
4 日目 羽田空港→浜松

2 日目の午前中のホテル研修では、インドネシア人と日本人との文化や生活様式について全くと言っていいほど、違うことを再認識しました。インドネシア人は裸で入浴しないので、浴室に使い捨ての下着が置いてあったり、祈祷室があったり、文化や生活様式が異なることで、配慮することやものが必要となると知ることができました。また、午後の討論会では、現地の大学生が話している内容を理解できなかったり、分からない日本語があったりと、会話が進まない場面がありました。言語の違いで、お互いの意思疎通が上手くいかず、理解を深めることに苦戦しました。英語力を身につけることが最大の課題であり、もう少し私たちに配慮することができていればよかったと反省しています。また、ジャガルタの問題について聞いている中で、国にとって発展することは良いことですが、自然災害や環境問題が増加していることも新たな課題になっていることを確認できました。ビジネスの力で地球環境の問題解決ができれば、それがSDGsにつながる活動になると思いました。



また、ブタウィ族文化の『オンデルオンデル』という巨大な張りぼて人形に大変興味を持ちました。実際にミニサイズの人形作りを体験し、写真を撮りました。『オンデルオンデル』の歴史を知ることができ、異文化にもっと触れる機会を持つと同時に、私自身が日本の文化についてしっかり理解していなければいけないと実感しました。

今回の海外インターンシップでは、私にとって自分で何事にもチャレンジしようとする力と柔軟に対応する力を一番に鍛えることができたと思います。そして、今の私にとって、語学力とコミュニケーション能力が最も必要であると実感しました。今後の高校生活において、克服できるような活動を取り入れていこうと思いました。

3 感想等

商業科で学ぶ私にとって、ホテル経営や業務内容など国内外で実体験できたことは大きな学びとなりました。インドネシアと日本の文化の違いから、そこに配慮すべきことがあり、日本企業が海外に進出する際には、ローカライゼーションの考え方を大切にすることが、現地で企業としての役割を果たすことにつながると理解しました。以前から、ホテル関係の仕事に就きたいと考えていましたが、今回の貴重な経験からグローバル化の中でのホテルの役割や、インバウンド対応などの課題について、今後は、学校の授業の中でも考えていきたいと思いました。

改めてホテルで働きたいと決意することができたので、日本人としての誇りを持ち、日本の文化を海外の人たちに自信を持って発信することができるホテルスタッフを目指します。そのためにも、日本の文化を知り、大切に思うことが必要です。そのような活動にも積極的に取り組んでいきたいです。今回は、貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	インドネシア		
校内発表会	9月2日			(対象)	全校・学年
学校名	浜松学芸高等学校	氏名	黄 桜子	学年	2

1 目的・応募理由

私は将来、外資系航空会社で乗務したいという夢があるからです。実は薬学部を志望していますが、人生で一度は客室乗務員としての経験を積みたいと考えています。今回の研修では、コロナ渦で不況になってしまったインドネシアの観光業の実態や海外でのホスピタリティを自分の目で見て学びたいと思い応募しました。

2 研修内容等

実施前研修

- ・研修日時：令和6年7月20日（土） 午前10時から午後3時まで
- ・研修場所：県庁

国内研修

- ・研修日：令和6年7月26日（金）
- ・研修場所及び研修時間：株式会社呉竹荘本社 午後1時から4時まで

海外研修

- ・研修期間 令和6年8月5日（月）から8日（木）まで
- ・研修日及び研修場所

1日目 スカルノハッタ国際空港到着その後ホテルへ

2日目 ホテル呉竹壮クマンジャカルタ業務研修、ビヌス大学日本語科の学生と文化交流会

3日目 ジャカルタ市内研修

- ・Taman Mini Indonesia Indah ・ファタヒラ広場
- ・イスティクラルモスク ・ジャカルタ大聖堂
- ・Grand Lucky ・Taman Ismail Marzuki

その後空港発、日本へ

4日目 日本到着

ホテル研修：フロント業務や施設完備の見学をして、日系ホテルのおもてなしスタイルや和の雰囲気になりながら、礼拝室の完備やラマダン明けの宴会サービス等のインドネシア人のニーズにも対応している点に感心しました。

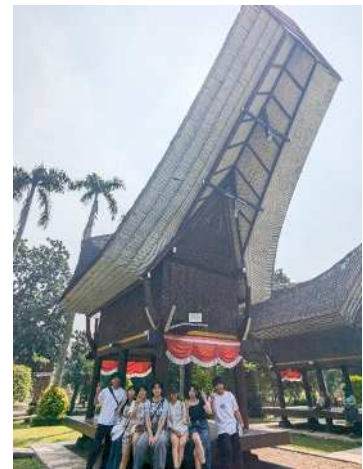


文化交流会：ビヌス大学の日本語科の方々からインドネシアの伝統芸「オンデルオンデル」で迎えられた事がとても印象的でした。その後は学生とグループごとにミニオンデルオンデル人形の製作やインドネシアの社会の問題のディスカッションを通して交流を深めることができました。教授からはインドネシアの食文化や日尼関係の百年間の歴史についての貴重なお話を伺い、とても貴重な体験でした。体験を通じて、



インドネシアという国をより一層身近に感じられるようになりました。

市内研修：「Taman Mini Indonesia Indah」はインドネシアの様々な島のパビリオンを集めた屋外テーマパークで、バリゾーンやスマトラゾーンなどインドネシア 33 州のパビリオン、18 の博物館、9 つの動植物園があり、ガムランや歌のショーも楽しめる場所です。「ファタヒラ広場」は 16 世紀のオランダ領時代に作られた広場で、現在はカフェやレストランが立ち並び、ローカルな雰囲気を感じることができます。「イスティクラルモスク」は 1961 年にスカルノ大統領によって建設された世界最大級のモスクで、異教徒も見学可能です。向かいにはジャカルタ最大級の教会「ジャカルタ大聖堂」があり、ムスリムが多いインドネシアでクリスチャンも祈りを捧げる姿が見られます。「Grand Lucky」は急遽訪れたスーパーで、ハラール認証の加工食品が多く、アラビア語表記も多かったことからイスラム教国だと再認識しました。帰路ではインターンシップの思い出を語り合い、楽しいひと時を過ごしました。



3 感想等

ジャカルタで過ごした 4 日間は、人生で一番アツい夏の思い出でした。短い滞在でしたが、これを読んでいるあなたにも私が体験したインドネシアの魅力をぜひお伝えしたいです。

街を歩けば、近代的な街と若者たちが織りなす力強いエネルギーに圧倒されるでしょう。都市特有の交通渋滞に悩まされましたが、彼らの親しみやすさが際立っており、どこへ行っても明るくて笑顔の絶えない人間性に常に心が温かく満たされていました。彼らと関わる中で自分自身も自然と笑顔になり、シャイな私でも積極的にコミュニケーションを取ろう、人ともっと関わりたいという気持ちが芽生えました。今回のインターンシップでは現地の人々と積極的にインドネシアの文化や生活に触れる事で、多くの驚きと発見に満ちていました。異文化を肌で感じ、世界の様々な側面を自分自身で垣間見えた素晴らしい機会をいただきました。今後はさらに多くの国々に訪れ、より広い視野を持って世界をみていきたいと思えます。



ガルダ航空の CA と記念撮影

